

2026年度

臨床検査技師科Ⅱ部
時間割・シラバス

東京医学技術専門学校

臨床検査技師教育課程（Ⅱ部・3年制）

2022年4月～

分野	教育内容	教科名	必修・選択	方法	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
							単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	社会科学	必修	講義	1	15	1	15				
		人間基礎科学	必修	講義	2	30	2	30				
		人間科学 生命科学	必修	講義	2	30	2	30				
		実践英語	必修	演習	2	30	2	30				
	人間と生活・社会の理解	社会情報学	必修	講義	2	30	2	30				
		時事医療社会学	必修	講義	1	15	1	15				
		コミュニケーション学	必修	講義	1	15	1	15				
		人間生物学	必修	講義	1	15	1	15				
		ウェルネス	必修	講義	1	15	1	15				
		ヒューマンエデュケーション	必修	講義	1	15	1	15				
	規則14単位	小計			14	210	14	210	0	0	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造論	必修	講義	2	30	2	30				
		人体の機能	必修	講義	2	30	2	30				
		人体の形態	必修	講義	1	15	1	15				
		代謝学	必修	講義	1	15	1	15				
		栄養学	必修	講義	1	15	1	15				
		薬理学	必修	講義	1	15			1	15		
	規則8単位	小計			8	120	7	105	1	15	0	0
	臨床検査の基礎とその疾病との関連	病理学	必修	講義	2	30	2	30				
		救急医療総論	必修	講義	1	15	1	15				
		医学検査総論	必修	講義	1	15					1	15
		疾病学	必修	講義	1	15			1	15		
	規則5単位	小計			5	75	3	45	1	15	1	15
	保健医療福祉と臨床検査	公衆衛生学	必修	講義	2	30	2	30				
		保健福祉論	必修	講義	1	15					1	15
		チーム医療総論	必修	講義	1	15			1	15		
	規則4単位	小計			4	60	2	30	1	15	1	15
	医療工学及び医療情報	医療情報システム学	必修	講義	1	15	1	15				
		医療機器工学	必修	講義	1	15	1	15				
		医療機器・情報科学演習	必修	演習	1	30					1	30
		IT医療情報演習	必修	演習	1	30	1	30				
	規則4単位	小計			4	90	3	60	0	0	1	30
専門分野	病態学	病態学	必修	講義	2	30			2	30		
		病態学演習	必修	演習	2	30					2	30
		病態解析学	必修	講義	1	15			1	15		
		病態画像解析学	必修	講義	1	15			1	15		
		生体分析解析学	必修	講義	1	15			1	15		
	規則7単位	小計			7	105	0	0	5	75	2	30
	血液学的検査	血液検査学	必修	講義	2	30			2	30		
		血液検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		血液検査学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則4単位	小計			4	90	0	0	3	60	1	30
	病理学的検査	病理検査学	必修	講義	2	30			2	30		
		病理検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		細胞診検査学	必修	講義	1	15			1	15		
		形態学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則5単位	小計			5	105	0	0	4	75	1	30
	尿・糞便等一般検査	一般検査学	必修	講義	2	30	2	30				
		一般検査学実習	必修	実習	1	30	1	30				
	規則3単位	小計			3	60	3	60	0	0	0	0
	生化学的検査・免疫学的検査	臨床化学	必修	講義	2	30			2	30		
		臨床免疫検査学	必修	講義	2	30			2	30		
		生体分析検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		生体分析検査学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則6単位	小計			6	120	0	0	5	90	1	30
	遺伝子関連・染色体検査	遺伝子染色体検査学	必修	講義	1	15			1	15		
		遺伝子染色体検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
	規則2単位	小計			2	45	0	0	2	45	0	0
	輸血・移植検査	移植免疫検査学	必修	講義	2	30	2	30				
		移植免疫検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		移植免疫検査学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則4単位	小計			4	90	2	30	1	30	1	30
	微生物学的検査	微生物学	必修	講義	1	15	1	15				
		臨床微生物学	必修	講義	2	30			2	30		
		臨床微生物検査学実習	必修	実習	2	60			2	60		
		臨床微生物学検査学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則6単位	小計			6	135	1	15	4	90	1	30
	生理学的検査	循環呼吸機能検査学	必修	講義	2	30	2	30				
		神経筋感覚機能検査学	必修	講義	2	30			2	30		
		画像検査学	必修	講義	2	30			2	30		
		循環呼吸機能検査学実習	必修	実習	1	30	1	30				
		神経筋感覚機能検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		画像検査学実習	必修	実習	1	30			1	30		
		生理機能検査学演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則10単位	小計			10	210	3	60	6	120	1	30
	臨床検査総合管理	検査管理学総論	必修	講義	2	30			2	30		
		臨床検査マネジメント	必修	講義	1	15			1	15		
		先端医療機器概論	必修	講義	1	15	1	15				
		精度管理学	必修	講義	1	15			1	15		
		臨床検査総合演習	必修	演習	1	30					1	30
	規則6単位	小計			6	105	1	15	4	60	1	30
	医療安全管理	医療安全管理学	必修	講義	1	15			1	15		
		医療安全管理学実習	必修	実習	1	30			1	30		
	規則2単位	小計			2	45	0	0	2	45	0	0
	臨地実習	臨地前学内実習 (OSCE)	必修	実習	1	30					1	30
		臨地実習	必修	実習	11	330					11	330
	規則12単位	小計			12	360	0	0	0	0	12	360
	総合計				102	2025	39	630	39	735	24	660
	合計規則102単位以上											

2026年度 学事予定表

臨床検査技師科Ⅱ部

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
1	水		1	金	創立記念日	1	月		1	水		1	土	模擬試験	1	火	
2	木		2	土	休 講	2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金	オリエンテーション	3	日	憲法記念日	3	水		3	金		3	月		3	木	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土	模擬試験	4	火		4	金	
5	日		5	火	こどもの日	5	金		5	日		5	水		5	土	模擬試験
6	月	入学式 授業開始	6	水	振替休日	6	土	模擬試験	6	月		6	木		6	日	
7	火		7	木		7	日		7	火		7	金		7	月	臨地実習開始
8	水		8	金		8	月		8	水		8	土		8	火	
9	木		9	土	模擬試験	9	火		9	木		9	日		9	水	
10	金		10	日		10	水		10	金		10	月		10	木	
11	土	模擬試験	11	月		11	木		11	土		11	火	山の日	11	金	
12	日		12	火		12	金		12	日		12	水	夏休み	12	土	
13	月		13	水		13	土		13	月		13	木	夏休み	13	日	
14	火		14	木		14	日		14	火		14	金	夏休み	14	月	
15	水		15	金		15	月		15	水		15	土	夏休み	15	火	
16	木		16	土		16	火		16	木		16	日	夏休み	16	水	
17	金		17	日		17	水		17	金		17	月		17	木	
18	土		18	月		18	木		18	土		18	火		18	金	
19	日		19	火	HBワクチン 接種	19	金		19	日		19	水		19	土	
20	月		20	水		20	土		20	月	海の日	20	木		20	日	
21	火		21	木		21	日		21	火		21	金		21	月	敬老の日
22	水		22	金		22	月		22	水		22	土		22	火	国民の休日
23	木	学生健康診断	23	土		23	火	HBワクチン 接種	23	木		23	日		23	水	秋分の日
24	金		24	日		24	水		24	金		24	月		24	木	
25	土	イベント	25	月		25	木		25	土		25	火		25	金	
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	
27	月		27	水		27	土		27	月		27	木		27	日	
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水		29	土		29	火	
30	木	振替休講	30	土		30	火		30	木		30	日		30	水	
			31	日					31	金		31	月				

2026年度 学事予定表

臨床検査技師科Ⅱ部

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1	木		1	日		1	火		1	金	元旦	1	月		1	月	
2	金		2	月		2	水		2	土	冬休み	2	火		2	火	
3	土	模擬試験	3	火	文化の日	3	木		3	日	冬休み	3	水		3	水	
4	日		4	水		4	金		4	月	冬休み	4	木		4	木	
5	月		5	木		5	土	模擬試験	5	火	冬休み	5	金		5	金	
6	火		6	金		6	日		6	水		6	土		6	土	
7	水		7	土	模擬試験	7	月		7	木		7	日		7	日	
8	木		8	日		8	火		8	金		8	月		8	月	
9	金		9	月		9	水		9	土		9	火		9	火	
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水		10	水	
11	日		11	水		11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念日	11	木	
12	月	スポーツの日	12	木		12	土		12	火		12	金		12	金	
13	火		13	金		13	日		13	水		13	土		13	土	
14	水		14	土		14	月		14	木		14	日		14	日	
15	木		15	日		15	火		15	金		15	月		15	月	卒業式
16	金		16	月		16	水		16	土	模擬試験	16	火		16	火	
17	土		17	火	抗体価測定 採血	17	木		17	日		17	水		17	水	
18	日		18	水		18	金		18	月		18	木		18	木	
19	月		19	木		19	土		19	火		19	金		19	金	
20	火	HBワクチン 接種	20	金		20	日		20	水		20	土		20	土	
21	水		21	土		21	月		21	木		21	日		21	日	春分の日
22	木		22	日		22	火		22	金		22	月		22	月	振替休日
23	金		23	月	勤労感謝の日	23	水		23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	
24	土		24	火		24	木		24	日		24	水		24	水	進級発表
25	日		25	水		25	金		25	月		25	木		25	木	
26	月		26	木		26	土	模擬試験	26	火		26	金		26	金	
27	火		27	金		27	日	冬休み	27	水		27	土		27	土	
28	水		28	土		28	月	冬休み	28	木		28	日		28	日	
29	木		29	日		29	火	冬休み	29	金					29	月	
30	金		30	月		30	水	冬休み	30	土					30	火	
31	土					31	木	冬休み	31	日					31	水	

2026年度

シラバス

1年生

【前期】

- ①社会科学
- ②人間基礎科学
- ③人間科学 生命科学
- ④実践英語
- ⑤社会情報学
- ⑥コミュニケーション学
- ⑦ウェルネス
- ⑧時事医療社会学
- ⑨人体構造論
- ⑩人体の機能
- ⑪人体の形態
- ⑫代謝学
- ⑬公衆衛生学
- ⑭救急医療総論
- ⑮先端医療機器総論

2026年度 臨床検査技師科Ⅱ部 前期時間割

第1学年

時限	1		2	
時間	18:00～19:30		19:40～21:10	
月	人体構造論 小 泉 (小林)	人体の形態 阿 部 (小林)	人体構造論 小 泉 (小林)	人体の形態 阿 部 (小林)
火	英 語 Matthew Rhoda (米良)		人間基礎科学 横 瀬 (辻)	
水	コミュニケーション学 後 藤 (米良)	社会科学 岡 崎 (米良)	人間科学 生命科学 米良	
木	時事医療社会学 柏 木 (米良)	社会情報学 上 野 (小林)	代謝学 米良	社会情報学 上 野 (小林)
金	人体の機能 赤 木 (小林)	公衆衛生学 小 林	人体の機能 赤 木 (小林)	公衆衛生学 小 林
土	予 備 日			

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	社会科学	担当教員	岡崎直也	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

現代社会においては、生命科学の進歩と医療への適応、また医療技術の発展により、人間の生と死とをめぐる新しい問題が多様に提起されている。そうした諸問題を把握しつつ生命倫理の今日的状況を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 医療を求める人々の立場に寄り添いながら、生命倫理に関する現代社会の具体的な問題を自覚できる。
2. 生命誕生から死にいたるライフ・サイクルにおける多様な問題に対処するための基準を探ることができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンスー現代社会における生命倫理ー	岡 崎
2	生殖補助医療の問題	岡 崎
3	クローン技術・ES細胞・iPS細胞の問題	岡 崎
4	脳死と臓器移植の問題	岡 崎
5	生体臓器移植の問題	岡 崎
6	尊厳死と終末期医療の問題	岡 崎
7	社会と生命倫理ー森鷗外「高瀬舟」を読むー	岡 崎
8	まとめ	岡 崎
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	児玉 聡『マンガで学ぶ生命倫理』 化学同人
成績評価法	定期試験、質疑応答、レポートを総合評価する。
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人間基礎科学	担当教員	横瀬 勝美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査には様々な機器を使用し、用途に応じた試薬が使用される。
化学ではそれら機器を使用するための基礎を知り、生体内の無機・有機化学の基礎知識を学ぶ。
さらに生体内の各臓器のp Hを知る事により、生体緩衝作用について学ぶことができる。そして
人が生きていくために摂取しているタンパク質や糖質の働きを知り、血液中のタンパク質や血糖値について学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 生体を構成する元素について説明ができる
- 2) 生体を構成するタンパク質や生体に必要な糖質・脂質の構造を説明できる
- 3) タンパク質・糖質・脂質の生体内での働きを説明できる
- 4) 個体試薬、液体試薬の濃度の計算をし、調整ができる
- 5) 生体内の酵素反応を知り酵素活性単位を理解し、生体組織の p H, 緩衝作用についての単位計算ができる
- 6) 臨床検査に必要な比色分析を理解し、血糖値やタンパク質の分析方法の計算ができる

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	生体を構成する無機質の働き	横 瀬
2	タンパク質（体を構成するタンパク質のアミノ酸の構造と化学的性質）	横 瀬
3	アミノ酸の分類と化学的性質タンパク質分類と構造	横 瀬
4	糖質の分類、単糖の構造と立体異性体 単糖の誘導体	横 瀬
5	オリゴ糖、多糖	横 瀬
6	脂質の分類、中性脂肪	横 瀬
7	複合脂質(リン脂質・糖脂質)	横 瀬
8	胆汁酸、ホルモン、ステロイドホルモン	横 瀬
9	物質を構成する元素	横 瀬
10	試薬の溶液濃度（固体試薬。液体試薬の調整方法）	横 瀬
11	生体の浸透圧濃度・生体の酵素の働きと濃度	横 瀬
12	酸・塩基・生体の各臓器の p H	横 瀬
13	生体の緩衝作用の働き	横 瀬
14	比色分析による物質の定量測定方法	横 瀬
15	血糖値・タンパク質の測定法	横 瀬

教科書・参考書	プリント配布・臨床検査に必要な計算技法
成績評価法	定期試験・中間試験・ポストテストを加味する
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	人間科学生命科学		担当教員	米良 信昭	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【一般目標（GIO）】

ヒトの生命現象に関する基礎的知識が身につくようになるために、細胞の構造および機能、ヒト組織の構造、酵素および呼吸の特性を習得する。本講義は農学バイオ系の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【到達目標（SBO）】

1. 細胞の構造や細胞内小器官の機能を説明できる。
2. ヒトの組織を説明できる。
3. 酵素の基本・反応および代謝系を説明できる。
4. 嫌気呼吸と好気呼吸の相違点を対比できる。
5. 本講義内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、細胞の構造および機能（動物細胞・植物細胞）	米良 信昭
2	細胞の構造および機能（微生物細胞・グラム陽性・グラム陰性・ウイルス）	米良 信昭
3	細胞内小器官の機能（核・リボソーム・小胞体・ゴルジ体・リソソーム）	米良 信昭
4	細胞内小器官の機能（ミトコンドリア・中心体・細胞骨格・細胞質）	米良 信昭
5	細胞内小器官の機能（細胞膜）、ヒトの組織（上皮組織）	米良 信昭
6	ヒトの組織［結合組織（線維性結合組織・軟骨組織・骨組織）］	米良 信昭
7	ヒトの組織［筋組織（骨格筋・心筋・平滑筋）］	米良 信昭
8	ヒトの組織［神経組織（中枢神経系・脳・脊髄）］	米良 信昭
9	ヒトの組織［神経組織（末梢神経系・脳神経・脊髄神経）］	米良 信昭
10	酵素の基本（活性化エネルギー・基質特異性）	米良 信昭
11	酵素反応（基質濃度と反応速度・ミカエリスメンテンの式）	米良 信昭
12	酵素反応（補因子・アロステリック酵素・フィードバック調節）	米良 信昭
13	呼吸 嫌気呼吸（解答系・発酵）	米良 信昭
14	呼吸 好気呼吸（クエン酸回路）、ミトコンドリアの外膜および内膜	米良 信昭
15	呼吸 好気呼吸（電子伝達系）、ATPの生産量	米良 信昭

教科書・参考書	参考書： ニューステージ生物図表 BIOLOGY 浜島書店、 資料の配布
成績評価法	定期試験100点とし、59点以下は不可とする。 出席2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

科目区分	☒ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	実践英語		担当教員	Matthew Rhoda	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

外国人の増加とともに医療の現場では日本語を話せない患者が増える傾向にあるため、臨床検査技師も英語を用いたコミュニケーションが必要とされている。
医療現場で迅速に対応できるように文法よりも実践的な英語コミュニケーション力を養う。

【 到達目標（S B O） 】

病院内で想定される場面で必要とされるフレーズを覚え活用できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	Unit 1	Rhoda
2	Unit 2	Rhoda
3	Unit 3	Rhoda
4	Unit 4	Rhoda
5	Unit 5	Rhoda
6	Unit 6	Rhoda
7	Unit 7	Rhoda
8	Unit 8	Rhoda
9	Unit 9	Rhoda
10	Unit 10	Rhoda
11	Unit 11	Rhoda
12	Unit 12	Rhoda
13	Unit 13	Rhoda
14	Unit 14	Rhoda
15	Unit 15	Rhoda

Unit 1

教科書・参考書	Vital Signs<Revised Edition>ホスピタル イングリッシュ
成績評価法	定期試験・中間試験・ポストテストを加味する
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	社会情報学	担当教員	上野 芳人	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

医療従事者が身につけておくべき医療制度や法規の知識を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 医学の歴史を理解し、法規や技術・機器の発見・発明者を挙げられる
- 2. 日本の医療制度の仕組みを説明できる。
- 3. 医療保険制度の仕組みを説明できる。
- 4. 日本の社会保障制度の仕組みを説明できる。
- 5. 臨床検査技師法および医療関係法規に記載されている内容を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医療とは	上 野
2	日本の医療制度	上 野
3	医学の歴史	上 野
4	日本の医学の歴史	上 野
5	日本の医学の歴史	上 野
6	日本の医療制度	上 野
7	日本の医療保険	上 野
8	法規とは	上 野
9	臨床検査技師法規 1	上 野
10	臨床検査技師法規 2	上 野
11	臨床検査技師法規 3	上 野
12	医事・薬事法規	上 野
13	保健医療関係法規	上 野
14	予防衛生法規	上 野
15	総まとめ	上 野

教科書・参考書	最新 臨床検査講座 保健医療福祉概論・関係法規 医歯薬出版
成績評価法	定期試験、ポストテストを総合評価する
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	時事医療社会学	担当教員	柏木久史	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 医療の制度、疾病の罹患状況など基本を理解する。
- 2) 近年直面している医療トピックスを理解する。
- 3) 社会で生活を営む心得を理解する。
- 4) 時事問題を学び習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 医療制度、現況を理解して専門知識を学ぶ糧とする。
- 2) 医療トピックスから情報収集をする方法を知る。
- 3) 時事問題の解決を実装し問題解決を実行する能力を身に付ける。
- 4) 幅広い視点で制度周辺の民間事業を把握する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医療の現況(寿命、生活習慣病・癌)	柏 木
2	医療制度の現況(基本編)	柏 木
3	現代の感染症の知識	柏 木
4	社会生活の営み	柏 木
5	時事問題の解決1	柏 木
6	時事問題の解決2	柏 木
7	総復習・テスト	柏 木
8	時事問題の解決	柏 木
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	プリントを配布する
成績評価法	修了試験
備考・実務経験等	病院・医療機関で勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☒ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	コミュニケーション学			担当教員	後藤 慧		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期			学 年	1 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

一般目標

- ・映像作品(主にフィクション、ドキュメンタリー映画)を視聴し、言語化する試みを通じて、自分なりの表現力を養う。
- ・インタビュー記事の作成や短編動画制作を通じて、他者とのコミュニケーションのありかたに向き合う。

【 到達目標（S B O） 】

- ・文章を具体的、論理的に書けるようになる。
- ・現代のコミュニケーションにおいて無視できない、映像メディアについての理解を深める。
- ・他者や社会との関わりかたについて、自分なりに反省・思考できるようになる。
- ・対象(作品・人など)を知覚・認識するプロセス自体を、意識できるようになる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	映像の視聴の仕方、文章の書き方についての導入	後藤
2	入出力訓練	後藤
3	入出力訓練	後藤
4	入出力訓練	後藤
5	インタビュー記事作成、短編動画制作	後藤
6	インタビュー記事作成、短編動画制作	後藤
7	インタビュー記事作成、短編動画制作	後藤
8	全体講評、議論	後藤
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	必要あれば講義中に指示、配布する。
成績評価法	平常点、レポート
備考・実務経験等	実務経験なし 受講生の興味・関心によって詳細を変更する可能性あり。

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人間生物学	担当教員	コットン 志保	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

こころの問題を抱えるヒトが増加している今般、人間の心理の構造と働きについて理解する。
医療の現場で、患者さんとコミュニケーションする場合に留意すべきことを学ぶことを目標とする。

【 到達目標（S B O） 】

- ・ヒトの心理の構造と働きについて説明できる。
- ・コミュニケーションの仕組みについて説明できる。
- ・ストレスをコントロールする必要性について述べられる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	心でみる世界	コットン
2	人間関係の中の自己（交流分析）	コットン
3	コミュニケーションの仕組み	コットン
4	コミュニケーションの仕組み（アサーショントレーニング）	コットン
5	コミュニケーションの仕組み（DESC法、他）	コットン
6	ストレスマネジメント	コットン
7	正しく伝えるためのコミュニケーション	コットン
8	聴くコミュニケーション 総まとめ	コットン
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	講義資料プリントは配布する
成績評価法	定期試験・レポートで行う
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	ウエルネス			担当教員	熊谷・田口・相内		授業形態	☒ 講義	☐ 実習
開講時期	☒ 前期		☐ 後期	学 年	1 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

医療従事者として、健康を身体の側面だけでなく、生き生きと生活するために、総合的に口腔ケアや食べ物に気を遣えるように学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・健康とは何か、生き生き生活するとは何かを理解する。
- ・口腔ケアの方法を説明できる。
- ・健康によりよい食生活とは何かを具体的に説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	健康とは	熊 谷
2	口腔内の健康	熊 谷
3	口腔ケアとは	田 口
4	口腔ケアの仕方Ⅰ	田 口
5	口腔ケアの仕方Ⅱ	相 内
6	口腔ケアの仕方Ⅲ	相 内
7	健康的な食生活	熊 谷
8	総まとめ	熊 谷
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	講義資料・プリントを配布する
成績評価法	定期試験、演習問題
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人体構造論	担当教員	小泉憲司	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

身体の構造を知ると言うことは人間を知ることである。自分の身体に興味を持って知ると言うことは、ほかの人を知ると言うことでもある。自分を大切にすると他の人の身体に対しても思いやる心を持って接することができる。身体のそれぞれの部位の名称を学び、健康や他人を思いやる気持ちを養う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．人体を構成する各器官の位置関係を理解し、他の器官との関連性について説明できる。
- 2．ヒトの正常構造を理解し、構造と機能を結びつけることによって病気を理解できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ヒトとは何か？構成するもの	小 泉
2	自分の身体で学ぶ 体表から知ることができる人体の構造	小 泉
3	血液と体液	小 泉
4	循環器系 心臓のしくみ	小 泉
5	循環器系 心臓のしくみ	小 泉
6	循環器系 血管系	小 泉
7	呼吸器系 1	小 泉
8	呼吸器系 2	小 泉
9	泌尿器系	小 泉
10	生殖器系	小 泉
11	内分泌系	小 泉
12	神経系 中枢神経	小 泉
13	神経系 末梢神経系	小 泉
14	神経系 自律神経系	小 泉
15	総まとめ	小 泉

教科書・参考書	入門人体解剖学 南江堂
成績評価法	定期試験、レポートを総合評価する
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人体の機能	担当教員	赤木 みさき	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

人体の機能は、解剖を含め体の重要な生理機能である。
専門分野科目の基礎となるため、全体像や細部のつながりを理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．各臓器の機能を説明できる。
- 2．人体が一つの構造として機能することを理解できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	細胞の基本構造と機能	赤 木
2	循環器系の機能	赤 木
3	呼吸機能系(呼吸と肺)の機能	赤 木
4	呼吸機能系(血液による酸素と二酸化炭素の輸送)の機能	赤 木
5	腎・尿路系の機能	赤 木
6	個体の調節機構とホメオスタシス	赤 木
7	内分泌系の機能	赤 木
8	神経・感覚系の機能	赤 木
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 岡田隆夫編集 メディカルビュー
成績評価法	定期試験、ポストテスト
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人体の形態	担当教員	阿部 寛	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

人体の正常構造と機能を理解し、解説できるようにする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 人体の構造を理解する。
- 2. 人体を構成する各組織の構造と機能を関連づけて概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	人体組織学 総論	阿 部
2	各論 呼吸器	阿 部
3	各論 循環器	阿 部
4	各論 泌尿器	阿 部
5	各論 生殖器	阿 部
6	各論 消化器	阿 部
7	各論 内分泌器官	阿 部
8	演習 1	阿 部
9	演習 2	阿 部
10	演習 3	阿 部
11	演習 4	阿 部
12	演習 5	阿 部
13	演習 6	阿 部
14	演習 7	阿 部
15	総まとめ	阿 部

教科書・参考書	ぜんぶわかる 人体解剖図
成績評価法	定期試験、ポストテスト、レポートを総合評価する
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	代謝学		担当教員	米良 信昭	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【一般目標（GIO）】

生体内の様々な物質の化学反応に関する基礎的知識が身につくようになるために、生体物質（糖質、脂質、タンパク質および核酸）の構造、機能および代謝の特性について習得する。本講義は農学バイオ系の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【到達目標（SBO）】

1. 様々な生体物質の構造や機能を説明できる。
2. 酵素の種類、特徴および代謝への役割を記述できる。
3. 様々な生体物質の代謝（異化および同化）を説明できる。
4. 本講義内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、代謝（異化および同化）について、酵素の種類	米良 信昭
2	糖質の構造および機能、糖質の代謝、解糖系、TCA回路、電子伝達系	米良 信昭
3	ペントースリン酸回路、グリコーゲン代謝、糖新生	米良 信昭
4	脂質の構造および機能、脂質の代謝、脂肪酸の分解（ β 酸化）と合成	米良 信昭
5	トリグリセリド・レシチン・コレステロールの代謝	米良 信昭
6	アミノ酸の特性（ペプチド結合）、タンパクの構造および機能	米良 信昭
7	タンパク質（アミノ酸）の代謝、アミノ酸の分解および合成	米良 信昭
8	核酸の構造・機能および代謝（デノボ合成およびサルベージ合成）	米良 信昭
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能 医学書院
成績評価法	定期試験100点とし、59点以下は不可とする。 出席2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	救急医療総論		担当教員	北原 秀治		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

医療従事者として身につけておきたい救急救命法を修得する。
初期救命法実技について学ぶと同時に、各種救急疾患の病態についても理解する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 一次救命法（AEDの使用法）が説明できる。
2. 各種救急疾患の症状を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	救急救命法の手技	北 原
2	救急疾患 循環器	北 原
3	救急疾患 呼吸器	北 原
4	救急疾患 腎	北 原
5	救急疾患 泌尿器	北 原
6	救急疾患 外傷	北 原
7	救急疾患 脳・中枢系	北 原
8	救急疾患 中毒	北 原
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	プリントを配布する
成績評価法	演習課題、レポートで行う
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	公衆衛生学	担当教員	小林隆志	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

健康の概念を理解し、公衆衛生の役割を学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．健康の概念を説明できる。
- 2．公衆衛生、保健と福祉の役割を説明できる。
- 3．疫学概念を理解し、疾病との因果関係が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	健康と公衆衛生の概念	小 林
2	疫 学	小 林
3	保健統計	小 林
4	医療法、地域保健	小 林
5	成人保健	小 林
6	母子保健	小 林
7	高齢者保健	小 林
8	障害者福祉	小 林
9	感染症対策	小 林
10	食品保健	小 林
11	学校保健	小 林
12	産業保健	小 林
13	環境保健	小 林
14	国際保健	小 林
15	総まとめ	小 林

教科書・参考書	公衆衛生がみえる 2024-2025 メディック・メディア
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	先端医療機器概論	担当教員	高橋 理	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- ①臨床検査の分野で汎用されている機器や検査法について原理を理解する。
- ②機器を適切に使用出来るよう取り扱い方や注意点について学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- ①機器の使用の目的・適切な使用法を述べられる。
- ②機器を使用した検査法の原理を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	化学測容器	高 橋
2	秤量装置	高 橋
3	遠心分離機	高 橋
4	分離分析装置①	高 橋
5	分離分析装置②	高 橋
6	クロマトグラフィ 質量分析装置	高 橋
7	攪拌装置	高 橋
8	滅菌装置	高 橋
9	測光装置①	高 橋
10	測光装置②	高 橋
11	顕微鏡装置①	高 橋
12	顕微鏡装置②	高 橋
13	電気化学装置 pHメータ	高 橋
14	電気化学装置 その他	高 橋
15	まとめ	高 橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 検査機器総論 医歯薬出版社
成績評価法	定期試験、レポート
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

2026年度

シラバス

1年生

【後期】

- ①栄養学
- ②病理学
- ③医療情報システム学
- ④医療機器工学
- ⑤IT 医療情報演習
- ⑥一般検査学
- ⑦一般検査学実習
- ⑧移植免疫検査学
- ⑨微生物学
- ⑩循環呼吸機能検査学
- ⑪循環呼吸機能検査学実習
- ⑫ヒューマンエデュケーション
- ⑬先端医療機器概論

2026年度 臨床検査技師科Ⅱ部 後期時間割

第1学年

時限	1		2	
時間	18：00～19：30		19：40～21：10	
月	一般検査学 辻	栄養学 松 田 (小林)	一般検査学 辻	医療機器工学 小 林
火	IT医療情報演習 稲 田 (米良)	移植免疫検査学 木 村 (小林)	IT医療情報演習 稲 田 (米良)	移植免疫検査学 木 村 (小林)
水	病理学 金 子 (小林)	医療情報システム学 只 野 (小林)	病理学 金 子 (小林)	医療情報システム学 只 野 (小林)
木	循環呼吸機能検査学・実習 山 川・辻		循環呼吸機能検査学・実習 山 川・辻	
金	微生物学 松村 (小林)	一般検査学実習 辻・高 橋	微生物学 松村 (小林)	一般検査学実習 辻・高 橋
土	予 備 日			

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	栄養学	担当教員	松田 依果	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きのことを指す。
バランスよく適切な栄養を摂取しなければ健康な状態を維持することができなくなる。
本科目ではどのような栄養素があるか、それら栄養素の必要量について学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 栄養素の種類とその特徴を理解できる。
- 2. 食事摂取基準に示されたエネルギーと栄養素の各指標を説明できる。
- 3. 各栄養素の栄養学的意義・役割を理解できる。
- 4. 水分代謝、エネルギー代謝を理解できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	栄養の基本的知識 栄養素の役割、消化と吸収	松 田
2	日本人の食事摂取基準 エネルギー・栄養素の各指標	松 田
3	栄養素の働き① 糖質(種類、働き、必要量、給源) 糖質とう蝕	松 田
4	栄養素の働き② たんぱく質(種類、働き、必要量、給源)	松 田
5	栄養素の働き③ 脂質(種類、働き、必要量、給源) ・小テスト	松 田
6	栄養素の働き④ ビタミン(種類、働き、欠乏症、給源)	松 田
7	栄養素の働き⑤ ミネラル(種類、働き、欠乏症、給源)	松 田
8	栄養素の働き⑥ 水分(働き、代謝) と食物繊維(種類、働き、必要量、給源) について	松 田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	プリントを配布する
成績評価法	筆記試験（小テスト含む）、課題を加味しにより総合的に判断する。
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病 理 学	担当教員	金子 伸行	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

医療従事者として各種疾患の原因、経過、転帰を理解するために、その病態の基本的知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1） 病因を内因と外因に分けて説明できる。
- 2） 病理解剖（剖検）の目的と意義について概説できる。
- 3） 退行性病変（細胞・組織の障害および代謝障害）の原因、病態、経過、転帰について概説できる。
- 4） 進行性病変（細胞の反応性増殖）について原因、病態、経過、転帰を概説できる。
- 5） 循環障害の原因、病態、経過、転帰について概説できる。
- 6） 炎症およびその関連疾患の原因、病態、経過、転帰について概説できる。
- 7） 腫瘍の原因、病態、経過、転帰について概説できる。
- 8） 遺伝子異常、先天異常、発育異常に関する疾患を列举し、概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	病理総論を学ぶための基礎組織学、病理学とは	金 子
2	組織細胞障害	金 子
3	物質代謝異常	金 子
4	循環障害	金 子
5	炎症総論	金 子
6	炎症各論	金 子
7	免疫アレルギー 総論	金 子
8	免疫アレルギー 各論	金 子
9	腫瘍 総論	金 子
10	腫瘍 各論 1	金 子
11	腫瘍 各論 2	金 子
12	腫瘍 各論 3	金 子
13	小児腫瘍	金 子
14	染色体異常	金 子
15	総まとめ	金 子

教科書・参考書	病理学/病理検査学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験で行う。
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野				
授業科目名		医療情報システム学		担当教員		只野 智昭		授業形態		☒ 講義	☐ 実習	
開講時期		☐ 前期		☒ 後期		学 年		1 学年		単位数		1

【一般目標（GIO）】

社会の一員であることを自覚し、教養、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけるための一環として情報システムの有用性を理解する。また、医療従事者として、医療分野における情報システムを適切に扱うための基礎知識を習得する。

【到達目標（SBO）】

1. 2進数、16進数、論理演算など、コンピュータにおける情報表現について説明ができる。
2. コンピュータを構成するハードウェア、ソフトウェアについて説明ができる。
3. インターネット、ネットワークセキュリティ、医療情報システムについて説明ができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、情報理論、コンピュータの情報表現	只 野
2	基数変換、2進数及び16進数の四則演算、論理演算、AD変換	只 野
3	中央処理装置、記憶装置、入力装置、出力装置、インターフェース、周辺機器	只 野
4	プログラム言語、OS、アプリケーション	只 野
5	演習：エクセル関数を用いた演算、エクセルを用いたグラフ作成	只 野
6	ネットワークの構成、TCP/IP、通信プロトコル、インターネット、SNS、webサイト、webサービス	只 野
7	セキュリティ、暗号化通信、医療とコンピュータ、病院システム	只 野
8	理解度の確認	只 野
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 情報科学（参考書）、関数電卓を各自用意すること
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する。
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり。

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野				
授業科目名		医療機器工学		担当教員		小林 隆志		授業形態		☒ 講義	☐ 実習	
開講時期		☐ 前期		☒ 後期		学 年		1 学年		単位数		1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査領域における医療機器を正しく安全に使用できるように知識を修得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 基本的な素子の特性を説明できる。
- 2) 基本的な電気回路の電流・電圧・抵抗などの値を求められる。
- 3) 生体信号を取り出す各種のトランスジューサが挙げられる。
- 4) 医療機器の安全基準を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	生体物性	小 林
2	電気回路の基礎	小 林
3	直流回路・交流回路	小 林
4	医用電子回路	小 林
5	生体情報の収集（トランスデューサ）	小 林
6	電氣的安全対策（電撃に対する人体反応）	小 林
7	生体情報の収集（トランスデューサ）	小 林
8	演習 総まとめ	小 林
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 医用工学概論
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野				
授業科目名		I T医療情報演習		担当教員		稲田 政則		授業形態		☒ 講義	☐ 実習	
開講時期		☐ 前期		☒ 後期		学 年		1 学年		単位数		1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査業務に付随する情報処理作業への理解を深めるために、オフィス系アプリケーションソフトウェアを使いながら、各種情報を整理・加工し、発信する技術を習得するとともに、データ分析を通して、計算機による効率的・効果的な利用技術を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) ファイル／フォルダにかんする基本的な操作ができる。
- 2) ワードプロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトを効率的に利用できる。
- 3) ネットワークを介したデータ送受信の操作ができる。
- 4) 基本的な統計処理を用いてデータ分析ができる。
- 5) 簡単なプログラミングができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ファイル操作(テキストファイル，ファイル／ディレクトリ操作)	稲 田
2	文書作成とファイル共有(ワードプロソフト，ネットワーク)	稲 田
3	表現技術とスライド作成(プレゼンテーションソフト)	稲 田
4	ホームページ作成(HTML，HTTP)	稲 田
5	表計算とデータ分析(表計算ソフト)	稲 田
6	プログラミング(表計算ソフト／Basic)	稲 田
7	データベース操作(データベースソフト)	稲 田
8	総括・予備日	稲 田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	プリントを配布する
成績評価法	定期試験、成果物を加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	一般検査学		担当教員	辻 正恵	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

尿検査を主とする一般検査の臨床検査における重要性とそれぞれの持つ臨床的意義を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・尿沈渣を含む尿検査の原理・手技・臨床的意義が説明できる。
- ・髄液検査の臨床的意義が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	イントロダクション・概論	辻
2	尿検査～検体採取法・取り扱い法	辻
3	尿の一般的性状・尿定性試験紙について	辻
4	化学的検査 尿比重～尿pH	辻
5	化学的検査 尿蛋白	辻
6	化学的検査 尿糖	辻
7	化学的検査 ケトン体～尿潜血	辻
8	化学的検査 代謝異常症など 腎機能検査	辻
9	尿沈渣 標本の作製・非上皮類 代謝異常	辻
10	尿沈渣 上皮類 円柱類	辻
11	尿沈渣 塩類 結晶類 他 糞便検査	辻
12	脳脊髄液検査 髄液算定 他	辻
13	喀痰・消化液・穿刺液・精液 他	辻
14	その他の体液・結石	辻
15	総まとめ	辻

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 一般検査学 医歯薬出版社
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	一般検査学実習		担当教員	辻正恵・高橋理	授業形態	☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

一般検査学の講義内容のうち、尿検査を中心にその検査手技と検査の臨床的意義を理解・習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・試験紙法による尿検査が実施し、結果を検討できる。
- ・尿沈渣標本の作製、鏡検、検査結果報告ができる。
- ・試験紙法及び尿沈渣の結果の臨床的意義が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	尿の一般的性状・pH・比重	辻・高橋
2	尿の一般的性状・pH・比重	辻・高橋
3	尿糖・尿蛋白(試験紙法・用手法)	辻・高橋
4	尿糖・尿蛋白(試験紙法・用手法)	辻・高橋
5	アセトン体・ウロビリニン体・ビリルビン	辻・高橋
6	アセトン体・ウロビリニン体・ビリルビン	辻・高橋
7	尿潜血・白血球・亜硝酸塩他	辻・高橋
8	尿潜血・白血球・亜硝酸塩他	辻・高橋
9	尿沈渣①	辻・高橋
10	尿沈渣①	辻・高橋
11	尿沈渣①	辻・高橋
12	尿沈渣①	辻・高橋
13	髄液算定	辻・高橋
14	髄液算定	辻・高橋
15	便潜血	辻・高橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 一般検査学
成績評価法	レポート・定期試験・出席状況を加味して行う
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学	担当教員	木村 美智代	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

輸血・移植に関する基本的な知識、用語を理解するとともに、実習で行う検査法の原理や注意点について学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．ABO式、Rh式の血液型検査が説明できる。
- 2．亜型の説明ができる。
- 3．交差適合試験について説明ができる
- 4．輸血による副反応の種類を列挙し、説明ができる

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	免疫総論（抗原）	木 村
2	免疫総論（抗体）	木 村
3	ABO血液型	木 村
4	Rh血液型	木 村
5	その他の血液型 1	木 村
6	その他の血液型 2	木 村
7	直接・間接クームス試験	木 村
8	不規則抗体	木 村
9	交差試験	木 村
10	不規則抗体スクリーニング法	木 村
11	各種製剤	木 村
12	輸血と副作用	木 村
13	自己血輸血	木 村
14	組織移植	木 村
15	総まとめ	

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 免疫検査学 配布プリント
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する。
備考・実務経験等	実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	微生物学	担当教員	松村 充	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

病原微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）を取り扱う上で必要となる生物学的特性（代謝、病原性、遺伝など）を理解し、あわせて消毒・滅菌および化学療法の基本理論を学修する。
また、感染防御に関わる免疫系の機能とその特徴について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 病原微生物（細菌、真菌、ウイルスなど）の基本的特徴について説明できる。
2. 各種臨床検体から病原微生物を分離・同定するために必要な基本的知識として、各種微生物の形態的特徴、培養法、生化学的性状試験などの同定法、および有効な化学療法剤について説明できる。
3. 人体各部位における正常細菌叢の役割と構成菌種について説明できる。
4. 医療関連感染防止を目的とした消毒法および滅菌法の原理と実践方法について説明できる。
5. 細菌の遺伝と変異、分子遺伝学的同定法、ならびに感染症の遺伝子診断について説明できる。
6. 抗菌薬の分類、作用機序および耐性機構（自然耐性・獲得耐性）について説明できる。
7. 症例提示に基づき感染症の病態を総合的に理解し、感染症患者に生じる多様な生体反応について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	病原微生物の分類、細菌の形態と構造、代謝と発育	松 村
2	細菌の観察法と染色法（Gram染色）、発育と培養	松 村
3	細菌培養法（分離培養・純培養）、細菌の代表的な同定法	松 村
4	遺伝・変異と遺伝子診断（PCR検査方法など）	松 村
5	滅菌および消毒	松 村
6	化学療法（抗菌薬の種類、薬剤感受性試験、薬剤耐性）	松 村
7	ワクチン、常在細菌叢とその変動	松 村
8	病原性と抵抗力、バイオセーフティ、医療関連感染、感染症関連法規	松 村
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座「臨床微生物学 第2版」医歯薬出版（教科書）
成績評価法	期末試験の結果に基づき、総括的に成績を評価する。
備考・実務経験等	大学病院での微生物検査業務に従事した実務経験を有し、国家試験問題作成委員として携わった経験をもつ大学教員である

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	循環呼吸機能検査学	担当教員	山川 憲文	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

循環器・呼吸器について基礎的な内容を理解し、心電図に関しては簡単な読影法を学習する。
呼吸器に関してもスパイロ、フロー検査の大切さを学習する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 循環器：危険な心電図（房室ブロック・不整脈など）を列挙し、その心電図波形が説明できる。
2. 呼吸器：肺気量分画を得るための検査方法が説明できる。
血液ガス分析データの解析ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	循環器概論	山 川
2	心臓の解剖と心電図の発生機序	山 川
3	心電図読影を進めながらそれぞれの波形の起因と意味 1	山 川
4	心電図読影を進めながらそれぞれの波形の起因と意味 2	山 川
5	心電図読影を進めながらそれぞれの波形の起因と意味 3	山 川
6	心電図読影を進めながらそれぞれの波形の起因と意味 4	山 川
7	心機図（脈波・心音など）	山 川
8	国家試験問題解説をしながら復習 1	山 川
9	循環器試験 呼吸器序論	山 川
10	肺について 肺気量分画	山 川
11	ガス分析を伴う検査	山 川
12	血液ガス分析と解釈	山 川
13	肺機能検査以外の検査について	山 川
14	国家試験問題解説をしながら復習	山 川
15	総まとめ	山 川

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する。
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	循環呼吸機能検査学実習	担当教員	山川憲文・辻正恵	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

講義学んだ内容の中から循環器領域に関しては心電計を用いた実習を中心に進めていく。
安静12誘導心電図、マスター負荷試験を実施し、心電図波形の臨床的意義を理解する。
呼吸機能領域については、スパイロメトリを使用した検査とそのデータのもつ臨床的意義を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 安静12誘導心電図が検査できる。
- 2. マスター運動負荷試験の検査ができる。
- 3. スパイロメトリの検査ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	安静12誘導心電図検査①	山川・辻
2	安静12誘導心電図検査②	山川・辻
3	安静12誘導心電図検査③	山川・辻
4	安静12誘導心電図検査④	山川・辻
5	安静12誘導心電図検査⑤（フィルタ効果）	山川・辻
6	安静12誘導心電図検査⑥（アーチファクト）	山川・辻
7	マスター運動負荷試験①	山川・辻
8	マスター運動負荷試験②	山川・辻
9	ホルター心電図①	山川・辻
10	ホルター心電図②	山川・辻
11	眼底写真・ABI①	山川・辻
12	眼底写真・ABI②	山川・辻
13	スパイロメトリ（VC・FVC）①	山川・辻
14	スパイロメトリ（VC・FVC）②	山川・辻
15	総まとめ	山川・辻

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学
成績評価法	定期試験・レポート・出席状況を加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関にて勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	ヒューマンエデュケーション		担当教員	辻 正恵	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習		
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1		

【 一般目標（G I O） 】

人として、接遇の基本的知識および患者対応時に必要な知識を修得する。
また、自己研鑽の必要性を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- ・接遇の基本的知識を説明できる。
- ・患者の心理的特徴を説明できる。
- ・自己研鑽の必要性について述べられる

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	接遇 1	辻
2	接遇 2	辻
3	患者の心理的特徴	辻
4	患者の心理状況の変化	辻
5	病気の受容	辻
6	患者指向	辻
7	自己研鑽	辻
8	総まとめ	辻
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	講義資料プリントは配布する
成績評価法	出席状況・レポートで行う
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

2026年度

シラバス

2年生

【前期】

- ①薬理学
- ②疾病学
- ③血液検査学
- ④病理検査学
- ⑤臨床化学
- ⑥臨床免疫検査学
- ⑦遺伝子染色体検査学
- ⑧臨床微生物学
- ⑨臨床微生物検査学実習
- ⑩神経筋感覚機能検査学

2026年度 臨床検査技師科Ⅱ部 前期時間割

第2学年

時限	1		2	
時間	18：00～19：30		19：40～21：10	
月	遺伝子染色体検査学・実習 米 良	微生物検査学実習 青野・松村 (小林)	遺伝子染色体検査学・実習 米 良	微生物検査学実習 青野・松村 (小林)
火	血液検査学 山崎 (高橋)	微生物検査学実習 青野・松村 (小林)	血液検査学 山崎 (高橋)	微生物検査学実習 青野・松村 (小林)
水	病理検査学 中村・藤城 (小林)	移植免疫検査学実習 木 村 (高橋)	病理検査学 中村・藤城 (小林)	移植免疫検査学実習 木 村 (高橋)
木	臨床免疫検査学 黒田 (辻)	臨床化学 渡部・河野 (小林)	臨床免疫検査学 黒田 (辻)	臨床化学 渡部・河野 (小林)
金	臨床微生物学 松 村 (小林)	神経筋感覚機能検査学 伊 藤 (小林)	臨床微生物学 松 村 (小林)	神経筋感覚機能検査学 伊 藤 (小林)
土	予 備 日			

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	血液検査学	担当教員	山崎 家春	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

生命維持の根幹に関わる血液について、その成分や各機能及び造血臓器について学習する。
血液の細胞成分および各成分の機能を理解し、疾患との関連を学習する。

【 到達目標（S B O） 】

血液の成分とその機能について理解し、造血の機序が説明できる。
白血球や貧血について説明できる。
凝固・止血のメカニズムが説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	血液の成分・性状	山 崎
2	血液の機能、血球の産生と崩壊	山 崎
3	赤血球系	山 崎
4	白血球系	山 崎
5	血小板系	山 崎
6	止血・凝固系	山 崎
7	血球に関する検査	山 崎
8	止血・凝固系に関する検査	山 崎
9	血球形態系に関する検査	山 崎
10	血小板・凝固・線溶系に関する検査	山 崎
11	赤血球系の疾患	山 崎
12	白血球系の疾患	山 崎
13	造血臓器の疾患	山 崎
14	凝固・線溶因子の異常	山 崎
15	総まとめ	山 崎

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 血液検査学
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関で勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病理検査学	担当教員	中村 博 藤城 真樹	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

病理検査の流れ及び病理検査標本作製の目的を理解する。
病理標本作製技術を理解する。
病理組織標本作製における一般染色及び特殊染色原理・染色態度を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 病理検査の流れを説明できる。
- 2) 組織を切り出しから染色までの病理組織標本作製の過程を説明できる。
- 3) ヘマトキシリン・エオジン染色の原理及びヘマトキシリン液の組成を説明できる。
- 4) 各種特殊染色の原理及び染色態度について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、固定法	中 村
2	組織片の切り出し	中 村
3	脱灰法	藤 城
4	包埋法、薄切法	藤 城
5	染色の一般論	中 村
6	HE染色	中 村
7	結合組織の染色法	藤 城
8	無機物質の染色法、生体内色素の染色法	中 村
9	組織内病原生物の染色法	中 村
10	核酸の染色法	藤 城
11	多糖類の染色法	藤 城
12	脂肪組織の染色法	藤 城
13	免疫組織化学染色	藤 城
14	神経組織の染色法	中 村
15	電子顕微鏡	中 村

教科書・参考書	最新臨床検査講座 病理学・病理検査学 染色法のすべて
成績評価法	定期試験・小テスト・授業態度
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床化学	担当教員	渡部俊之 河野正臣	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

各成分の臨床化学分析の基礎的理解とその応用について講義する。
その結果、医療の中で検査技師が行う検査が重要な役割を演じているかを理解できるように講義する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 分光光度計の使い方と原理の基礎を理解する。
- 2) 精度管理の基本と生化学自動分析機を理解する。
- 3) 糖尿病および糖尿病関連検査について理解する。
- 4) タンパク合成と栄養管理について理解する。
- 5) 窒素代謝と腎機能検査を理解する。
- 6) 生体色素の代謝、疾病との関り、測定法を理解する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床化学とは、化学分析法	渡 部
2	物質成分の臨床的意義と糖成分測定法、糖の共通反応	河 野
3	脂質の基礎(分類、リポ蛋白、中性脂肪、コレステロール	渡 部
4	無機質、電解質、血液ガス	渡 部
5	蛋白質、アミノ酸と蛋白質、構造と機能、アミノ酸と蛋白質代謝	河 野
6	非タンパク性窒素化合物の種類、生体色素、胆汁酸	河 野
7	ホルモンの基礎、各論、	渡 部
8	機能検査	渡 部
9	薬物検査、ビタミン	河 野
10	酵素の基礎、酵素活性の測定	河 野
11	酵素の検査	渡 部
12	腫瘍マーカー	河 野
13	POCT	渡 部
14	精度管理	河 野
15	総まとめ	渡 部

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床免疫検査学	担当教員	黒田 雅顕	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

様々な病原体感染に対する防御システムとしての免疫の働きを正しく理解する。
さらにアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症等の発症メカニズムや検査法についても学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 抗原抗体反応を説明できる。
- 2) 抗原抗体反応に影響を与える原因を説明できる。
- 3) 感染症における免疫学的検査法と結果の説明ができる。
- 4) 血漿蛋白異常症とその検査法、結果の解釈について説明できる。
- 5) 腫瘍免疫とその免疫学的検査法、結果の解釈について説明できる。
- 6) アレルギーの成因機序とその免疫学的検査法について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	免疫担当細胞	黒 田
2	自然免疫と獲得免疫	黒 田
3	獲得免疫におけるT細胞、B細胞の役割	黒 田
4	B細胞の分化増殖と抗体の産生	黒 田
5	抗体の種類と機能、補体蛋白	黒 田
6	活動免疫と受動免疫、ワクチンの種類	黒 田
7	免疫活性に係る接着分子の役割	黒 田
8	抗原抗体反応の基礎知識、反応に影響を与える原因	黒 田
9	沈降反応、凝集反応、凝集欲正反応	黒 田
10	溶血反応、非標識免疫測定法	黒 田
11	溶血反応、非標識免疫測定法	黒 田
12	標識免疫測定法、血中微量成分(ホルモン、腫瘍マーカー等の定量法	黒 田
13	感染症(梅毒、ウイルス等)検査法と結果の解釈	黒 田
14	アレルギーの検査法、自己免疫病の種類と検査法、結果の解釈	黒 田
15	総まとめ	黒 田

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植免疫検査学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	遺伝子染色体検査学		担当教員	米良 信昭
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（GIO）】

遺伝子および染色体の異常が判断できるようになるために、遺伝子および染色体の特性、異常の原因、異常と疾患との関係を習得する。さらに、遺伝子および染色体の様々な検査が行えるようになるために、遺伝子および染色体の検査方法を理解する。本講義は遺伝子染色体の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【到達目標（SBO）】

1. 染色体の特性および染色体異常を理解している。
2. 染色体の検査方法を説明できる。
3. 遺伝子の特性および遺伝子異常を理解している。
4. 遺伝子の検査方法を説明できる。
5. 本講義内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、染色体の基礎（常染色体・性染色体、標準型）	米良 信昭
2	ゲノム、細胞周期、対合、遺伝子の組換え	米良 信昭
3	染色体の異常（数の異常、その原因、代表的な疾患）	米良 信昭
4	色体の異常（構造の異常、その原因、代表的な疾患）	米良 信昭
5	染色体異常の淘汰率、融合遺伝子、フィラデルフィア染色体	米良 信昭
6	染色体の検査方法（分染法、核型解析、Fish法）	米良 信昭
7	遺伝子の基礎（DNA、RNA、ヌクレオチド）、遺伝子の例	米良 信昭
8	ヒトゲノム解析、がん・がん抑制遺伝子、メンデルの法則	米良 信昭
9	セントラルドグマ、DNAの複製（テロアの末端問題）、mRNAへの転写	米良 信昭
10	スプライシング、遺伝暗号、タンパク質への翻訳	米良 信昭
11	遺伝子の異常（突然変異、変異の原因、その疾患）	米良 信昭
12	単一遺伝病（常染色体優性[顕性]遺伝病、ハンチントン病 など）	米良 信昭
13	遺伝子治療、ゲノム編集（クリスパー配列）、再生医療	米良 信昭
14	体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞（ノーベル賞）	米良 信昭
15	遺伝子の検査法（PCR法、シーケンス解析 など）	米良 信昭

教科書・参考書	教科書：最新 臨床検査学講座 遺伝子関連・染色体検査学 第3版 医歯薬出版
成績評価法	定期試験100点とし、59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	遺伝子染色体検査学 実習		担当教員	米良 信昭
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【一般目標（GIO）】

遺伝子および染色体の異常が判断できるようになるために、細胞周期での染色体の形態およびヒトの核型解析、遺伝子の取り扱い方、DNA抽出、PCR増幅、ゲル電気泳動および結果の読み方 を習得する。本実習により、遺伝子および染色体を用いた検査方法の基本原則を理解する。本実習は遺伝子染色体の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【到達目標（SBO）】

1. 染色体の特性を説明できる。
2. 染色体の核型解析を行える。
3. 遺伝子を正しく取り扱える。
4. PCR検査法を説明できる。
5. 本実習内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	本実習の全体説明（ガイダンス）、レポートの書き方	米良 信昭
2	ニンニクの根を用いた染色体の観察（分裂期）1	米良 信昭
3	ニンニクの根を用いた染色体の観察（分裂期）2	米良 信昭
4	ヒトの核型作製および解析 1	米良 信昭
5	ヒトの核型作製および解析 2	米良 信昭
6	酵母細胞からのDNA抽出とその定量 1	米良 信昭
7	酵母細胞からのDNA抽出とその定量 2	米良 信昭
8	口腔粘膜細胞からのヒトDNAの抽出（自分のDNA）1	米良 信昭
9	口腔粘膜細胞からのヒトDNAの抽出（自分のDNA）2	米良 信昭
10	ヒトに特有なAlu配列のPCR増幅 1	米良 信昭
11	ヒトに特有なAlu配列のPCR増幅 2	米良 信昭
12	ヒトPCR産物のアガロースゲル電気泳動（定性）1	米良 信昭
13	ヒトPCR産物のアガロースゲル電気泳動（定性）2	米良 信昭
14	電気泳動の結果の読み方、実習のまとめ 1	米良 信昭
15	電気泳動の結果の読み方、実習のまとめ 2	米良 信昭

教科書・参考書	教科書：最新 臨床検査学講座 遺伝子関連・染色体検査学 第3版 医歯薬出版
成績評価法	レポートを4回（100点）で評価する。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		臨床微生物学		担当教員		松村 充		授業形態		☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期		☒ 前期 ☐ 後期		学 年		2 学年		単位数		2	

【 一般目標（G I O） 】		
ヒト感染症の迅速かつ正確な診断および適切な治療に資する検査技術の修得を目的として、病原微生物の基礎知識、抗菌薬の作用機序と薬剤耐性機構、ならびに医療関連感染対策における臨床検査技師の役割を理解する。		
【 到達目標（S B O） 】		
1. グラム陽性球菌およびグラム陰性球菌の特徴、検査法、関連感染症について説明できる。		
2. 通性嫌気性グラム陰性桿菌の特徴、検査法、関連感染症について説明できる。		
3. 偏性好気性グラム陰性桿菌の特徴、検査法、関連感染症について説明できる。		
4. マイコバクテリウム属（結核菌等を含む）の特徴、検査法、病態および感染症診断法について説明できる。		
5. 偏性嫌気性菌の特徴、検査法、関連感染症について説明できる。		
6. 主要な病原真菌の分類、感染症の病態、ならびに形態学的・生物学的性状に基づく検査法について説明できる。		
7. DNAウイルスおよびRNAウイルスの性状、感染様式、感染症の病態、ならびに主要な検査法について説明できる。		
【 授業内容 】		

回	授 業 内 容	担当教員
1	好気性・通性嫌気性Gram陽性球菌（ブドウ球菌・レンサ球菌・腸球菌）	松 村
2	好気性・通性嫌気性Gram陰性球菌（ナイセリア属・モラクセラ属）	松 村
3	通性嫌気性Gram陰性桿菌（腸内細菌①）	松 村
4	通性嫌気性Gram陰性桿菌（腸内細菌②、ビブリオ属、エロモナス属）	松 村
5	好気性Gram陰性桿菌（パスツレラ属、ブドウ糖非発酵菌）	松 村
6	好気性Gram陰性桿菌（レジオネラ属、カンピロバクター属）	松 村
7	好気性・通性嫌気性Gram陽性桿菌（バシラス属、リステリア属）	松 村
8	Gram陽性・抗酸性桿菌（マイコバクテリウム属、ノカルジア属）	松 村
9	偏性嫌気性菌（バクテロイデス属、クロストリジウム属）	松 村
10	マイコプラズマ属、リケッチア、クラミジア	松 村
11	真菌（総論、各論・酵母用真菌）	松 村
12	真菌（各論・糸状菌、検査法、治療）	松 村
13	ウイルス（総論、各論・DNAウイルス）	松 村
14	ウイルス（各論・RNAウイルス）	松 村
15	微生物検査法・微生物検査結果の評価	松 村

教科書・参考書	最新臨床検査学講座「臨床微生物学 第2版」医歯薬出版（教科書）
成績評価法	定期試験の結果に基づき、総合的に成績を評価する。
備考・実務経験等	大学病院での微生物検査業務に従事した実務経験を有し、国家試験問題作成委員として携わった経験をもつ大学教員である

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床微生物検査学実習	担当教員	青野 昭男 松村 充	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

実習者は講義で習得した微生物学的知識を確実なものとし、培養同定結果等から得られる情報収集能力と視点の向け方について習得する

【 到達目標（S B O） 】

- ・実習者は実際に臨床で分離される細菌を用いて実習を行い、それぞれの細菌の性状を比較・分類することで、試験に用いる培地や検査キットの特徴を理解し、菌種同定および薬剤感受性試験について学ぶ。
- ・実習者は用いた微生物に関連する疾病について調べ、理解を深めることにより医療全体における微生物検査の役割について考察する。
- ・実習者は無菌操作や純培養の意味を理解すると共にその技術を身に着け、自身への感染予防についても学ぶ。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	無菌操作と培地作製、分離培養の手技	青野、松村
2	グラム染色、抗酸菌染色	青野、松村
3	細菌の代謝と培養法	青野、松村
4	細菌の代謝と培養法	青野、松村
5	Staphylococcus 属の同定と検査法1	青野、松村
6	Staphylococcus 属の同定と検査法2	青野、松村
7	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法1	青野、松村
8	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法1	青野、松村
9	腸内細菌科の同定と検査法1	青野、松村
10	腸内細菌科の同定と検査法2	青野、松村
11	Vibrio属の同定と検査法2	青野、松村
12	Vibrio属の同定と検査法2	青野、松村
13	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法1	青野、松村
14	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法2	青野、松村
15	薬剤感受性試験と β ラクタマーゼ検出法	青野、松村

教科書・参考書	臨床微生物検査技術教本 第2版（JAMT技術教本シリーズ）丸善出版
成績評価法	レポート、実習試験および定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	神経筋感覚機能検査学	担当教員	伊藤 洋美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

生理学的検査を実施するための神経・筋・感覚器の解剖生理を学び、関連する検査の原理・方法を理解する。
検査結果について考察できるようにする。

【 到達目標（S B O） 】

- ・中枢神経系・末梢神経の構造と機能、脳の機能局在を理解し説明できる。
- ・脳波計の構造と原理を理解し説明できる。
- ・正常脳波・各種異常脳波・脳波の賦活法・アーチファクトの種類と対策について理解し説明できる。
- ・誘発電位の種類・検査法・判読法を理解し説明できる。
- ・筋電図検査、神経伝導検査、誘発筋電図の原理・計測法・判読法を理解し説明できる。
- ・運動神経と感覚神経の伝導路が説明できる。
- ・筋原性変化と神経原性変化について概説できる。
- ・感覚機能の各検査法・判読法を理解し説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	脳の構造と機能（神経細胞、興奮の伝導、脳機能局在、脳波の発生機序）	伊 藤
2	脳波計の構造と原理、脳波電極と導出法	伊 藤
3	脳波の基礎的要素、正常脳波（基礎律動・左右差・α波の出現要素）	伊 藤
4	年齢と脳波の変化、睡眠脳波（睡眠段階・終夜睡眠ポリグラフィ）	伊 藤
5	異常脳波（基礎律動の異常・突発性異常・疾患と特徴的異常波形）	伊 藤
6	異常脳波（基礎律動の異常・突発性異常・疾患と特徴的異常波形）	伊 藤
7	誘発脳電位（視覚・聴覚・体性感覚誘発電位・事象関連電位）	伊 藤
8	筋電図検査における生理学的基礎的事項、普通針筋電図	伊 藤
9	表面筋電図、末梢神経伝導検査1（運動神経・感覚神経伝導検査）	伊 藤
10	末梢神経伝導検査2（M波・H波・F波伝導経路）	伊 藤
11	反復神経刺激試験、経頭磁気刺激試験、脳磁図	伊 藤
12	脳死判定時の脳波検査、神経・筋機能検査小テスト	伊 藤
13	神経・筋機能検査小テスト問題の解答と解説	伊 藤
14	感覚機能検査1（平衡機能検査・聴覚検査）	伊 藤
15	感覚機能検査2（無散瞳による眼底検査・嗅覚検査・味覚検査）	伊 藤

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学、配布プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

2026年度

シラバス

2年生

【後期】

- ①チーム医療総論
- ②病態学
- ③血液検査学実習
- ④病理検査学実習
- ⑤細胞診検査学
- ⑥生体分析検査学実習
- ⑦遺伝子検査学実習
- ⑧移植免疫検査学実習
- ⑨画像検査学
- ⑩神経筋感覚機能検査学実習
- ⑪画像検査学実習
- ⑫検査管理学総論
- ⑬精度管理学
- ⑭臨床検査マネジメント
- ⑮医療安全管理学
- ⑯医療安全管理学実習

2026年度 臨床検査技師科Ⅱ部 後期時間割

第2学年

時限	1		2	
時間	18:00～19:30		19:40～21:10	
月	病理検査学実習 喜納・中村 (小林)	細胞診検査学 喜納・中村 (小林)	病理検査学実習 喜納・中村 (小林)	細胞診検査学 喜納・中村 (小林)
火	画像検査学実習 前島・伊藤・辻	神経筋感覚機能検査学実習 小野瀬・山川 (小林)	画像検査学実習 前島・伊藤・辻	神経筋感覚機能検査学実習 小野瀬・山川 (小林)
水	血液検査学実習 常名・内藤 (小林)	病態学 阿部 (小林)	血液検査学実習 常名・内藤 (小林)	病態学 阿部 (小林)
木	生体分析検査学実習 末吉・高橋	臨床検査マネジメント 上野 (高橋)	生体分析検査学実習 末吉・高橋	臨床検査マネジメント 上野 (高橋)
金	画像検査学 石崎 (辻)	検査管理学総論 中井 (高橋)	画像検査学 石崎 (辻)	検査管理学総論 中井 (高橋)
土	予備日			

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	チーム医療総論		担当教員	石崎 一穂
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

医療における様々な職種の役割を理解し、医療を実践するチームの役割を把握する。
また、医療チームの中での臨床検査技師の役割を把握する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・チーム医療の定義や必要性、病院内でのチーム医療の実際に関して説明できる。
- ・臨床検査技師としてあるべき姿や医療の質と安全に関する取り組み方について説明できる。
- ・各職種の業務内容とチーム医療における役割について説明できる。
- ・病院内で実際に行われているチーム医療に関して説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	チーム医療とは	石 崎
2	チーム医療の一員として学ぶべきこと	石 崎
3	チーム医療の一員として学ぶべきこと	石 崎
4	チーム医療に関わる職種 1	石 崎
5	チーム医療に関わる職種 2	石 崎
6	チーム医療の実際 1	石 崎
7	チーム医療の実際 2	石 崎
8	心理的安全性について	石 崎
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	講義資料・プリントを配布する
成績評価法	定期試験、レポート
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	疾病学	担当教員	金子 伸行	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

病気の原因、発症・進行の過程、機能の変化など病態を理解する。
各種疾患の発生に関わる仕組みや身体への影響を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・細胞・組織の損傷や修復、炎症、感染症、循環障害、腫瘍などの疾病の概念を説明できる。
- ・各種疾病の特徴を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	病気の原因、細胞の損傷と再生・修復	金 子
2	循環器疾患	金 子
3	呼吸器疾患	金 子
4	消化器疾患	金 子
5	腎・泌尿器疾患	金 子
6	内分泌疾患	金 子
7	血液・造血器疾患	金 子
8	腫瘍	金 子
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	病態学		担当教員	阿部 寛	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

各種疾患の特徴とその症状に関する知識を習得する。また、診断の根拠となる検査の知識を修得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 臨床検査の意義が説明できる。
- 2) 基準範囲や生理的変動が説明できる。
- 3) 主な疾患の経過とその検査結果を説明できる。
- 4) 検査結果からその病態を説明することができる。
- 5) 主な疾患とその検査結果の評価ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査の意義	阿 部
2	基準範囲、パニック値、生理的変動	阿 部
3	循環器疾患とその検査	阿 部
4	呼吸器疾患とその検査	阿 部
5	消化器疾患とその検査	阿 部
6	肝臓・胆のう・膵臓疾患とその検査	阿 部
7	感染症とその検査	阿 部
8	血液・造血器疾患とその検査	阿 部
9	内分泌疾患とその検査	阿 部
10	腎臓・泌尿器疾患とその検査	阿 部
11	アレルギー疾患・膠原病とその検査	阿 部
12	代謝・栄養異常、感覚器疾患、中毒とその検査	阿 部
13	体液・酸塩基平衡異常とその検査	阿 部
14	悪性腫瘍とその検査	阿 部
15	総まとめ	阿 部

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 病態学／臨床検査医学総論
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	血液検査学実習	担当教員	常名政弘 内藤麻美	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1. 血液学検査が行えるよう血液検査法を理解する。
- 2. 血液学検査の目的を理解するために臨床的意義を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 血球数算定の原理を理解する。
- 2) 末梢血液塗抹標本の作製及び手順を理解する。
- 3) 末梢血液塗抹標本の染色手順と染色の原理を理解する。
- 4) 健常者の白血球分類ができる。
- 5) 血液疾患を理解し出現する細胞分類ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	血球数算定(白血球)	常名・内藤
2	血球数算定(ヘマトクリット値)・赤血球指数	常名・内藤
3	末梢血液塗抹標本作製	常名・内藤
4	末梢血液塗抹標本普通染色	常名・内藤
5	健常者塗抹標本の観察・カウント	常名・内藤
6	健常者塗抹標本の観察・カウント	常名・内藤
7	末梢血液塗抹標本症例①	常名・内藤
8	末梢血液塗抹標本症例②	常名・内藤
9	凝固検査(PT・APTT)	常名・内藤
10	凝固検査(PT・APTT) 症例検討	常名・内藤
11	健常者の骨髓細胞観察①	常名・内藤
12	健常者の骨髓細胞観察②	常名・内藤
13	健常者の骨髓細胞観察③	常名・内藤
14	骨髓像症例細胞観察②	常名・内藤
15	総 括	常名・内藤

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 血液検査学 血液細胞アトラス
成績評価法	定期試験、レポート点を加味する。
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病理検査学実習	担当教員	喜納 勝成 中村 博	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

病理標本作成技術を習得する。
特殊染色の原理および染色手順を理解する。
免疫組織学化学染色を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) ホルマリン固定からパラフィンブロック標本を作製することが出来る。
- 2) ヘマトキシリン・エオジン染色の試薬調製ができ、染色を行うことができる。
- 3) 特殊染色原理を理解し染色手順を説明できる。
- 4) 免疫組織化学染色原理を理解し、使用抗体の目的・染色態度について説明できる。
- 5) 組織染色標本を観察し、特徴を捉え正確にスケッチできる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション、固定、切り出し、パラフィン包埋	中 村
2	ブロック作製、ミクロトーム取り扱いの説明	中 村
3	薄 切	中 村
4	薄 切	中 村
5	ヘマトキシリン・エオジン染色	喜 納
6	ヘマトキシリン・エオジン染色およびスケッチ	喜 納
7	組織染色(AZAN染色 MT染色)・特殊染色原理	中 村
8	組織染色(AZAN染色 MT染色)・特殊染色原理およびスケッチ	中 村
9	組織染色(Tbc染色 オルセイン染色)・特殊染色原理	中 村
10	組織染色(Tbc染色 オルセイン染色)・特殊染色原理およびスケッチ	中 村
11	組織染色(グリメリウス、鍍銀染色)・特殊染色原理	喜 納
12	組織染色(グリメリウス、鍍銀染色)・特殊染色原理およびスケッチ	喜 納
13	組織染色(KB染色、IHC染色)・特殊染色原理	中 村
14	組織染色(KB染色、IHC染色)・特殊染色原理	中 村
15	総 括	喜 納

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 病理検査学、染色法のすべて 医歯薬出版
成績評価法	定期試験 実習態度 スケッチ内容
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	細胞診検査学	担当教員	喜納勝成 中村 博	授業形態 ☒ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

細胞学的検査法とスクリーニング手順について理解する。
細胞診断意義および腫瘍細胞出現態度について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 細胞学的検査の標本作製、染色方法、細胞学的特徴を説明できる。
- 2) 細胞を観察し特徴を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、細胞診の基礎	中 村
2	細胞診の検体処理	中 村
3	細胞診の検体処理	喜 納
4	呼吸器の細胞診	喜 納
5	泌尿器の細胞診	中 村
6	乳腺、甲状腺の細胞診	中 村
7	乳腺、甲状腺の細胞診	喜 納
8	総 括	喜 納
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学 染色法のすべて
成績評価法	定期試験・授業態度・スケッチ
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生体分析検査学実習	担当教員	末吉 茂雄 高橋 理	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

化学分析より得られる測定値と取り扱い、各種疾患の原因、経過を理解するために、その基本的知識を取得する。
講義で習得した化学分析の知識を確実にするために、化学的反応を理解し分析技術を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 化学分析より得られた値の精確さについて説明できる。
- 2) マイクロピペット、分光光度計の原理、操作について説明できる。
- 3) 尿蛋白の測定法について概説できる。
- 4) 血清の総蛋白、アルブミンの分析法、かかわる疾患の原因、病態、経過について概説できる。
- 5) 血清中ビリルビンの分析法、かかわる疾患の原因、病態、経過について概説できる。
- 6) 血清ALP活性の分析法、かかわる疾患の原因、病態について概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	マイクロピペット、分光光度計の操作法と精確さ。	末吉・高橋
2	マイクロピペットの重量法による検定	末吉・高橋
3	蛋白質と検量線の説明と試薬調製	末吉・高橋
4	尿蛋白の測定	末吉・高橋
5	血清総蛋白とアルブミンの測定	末吉・高橋
6	血清アルブミン測定とモル吸光係数	末吉・高橋
7	血清ビリルビン測定の説明と試薬調製	末吉・高橋
8	血清ビリルビンの測定	末吉・高橋
9	蛋白、血清ビリルビンのまとめ	末吉・高橋
10	血清ALP活性測定の説明	末吉・高橋
11	血清ALP活性測定の試薬調製	末吉・高橋
12	血清ALP活性測定 1	末吉・高橋
13	血清ALP活性測定 2	末吉・高橋
14	血清ALP活性の計算・まとめ	末吉・高橋
15	総 括	末吉・高橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学
成績評価法	定期試験 レポート
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学実習	担当教員	木村 美智代 高橋 理	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

安全な輸血を行うために必要な基本的な検査法の操作を習得する。
各検査法の目的・原理・結果の考察方法を学び、身につける。

【 到達目標（S B O） 】

ABO式、Rh式の血液型検査ができ、判定ができる。
D陰性確認試験が正確に実施できる。
交差適合試験が一連の手技として最後まで実施できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	基本操作 1 遠心機、スポイト、滴瓶の取り扱い方	木村・高橋
2	基本操作 2 血球洗浄・血球浮遊液の作製	木村・高橋
3	ABO Rh 血液型検査 1	木村・高橋
4	ABO Rh 血液型検査 2	木村・高橋
5	ABO 亜型検査 1	木村・高橋
6	ABO 亜型検査 2	木村・高橋
7	D陰性確認試験 1	木村・高橋
8	D陰性確認試験 2	木村・高橋
9	交差適合試験 1	木村・高橋
10	交差適合試験 2	木村・高橋
11	交差適合試験 3	木村・高橋
12	不規則抗体スクリーニング 1	木村・高橋
13	不規則抗体スクリーニング 2	木村・高橋
14	不規則抗体スクリーニング 3	木村・高橋
15	実技試験	木村・高橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 免疫検査学 配布プリント
成績評価法	定期試験、実技試験、レポート点を加味する。
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	画像検査学	担当教員	石崎 一穂	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

- 1. 超音波の特性を学習し、超音波検査のメリット、デメリットを理解する。
- 2. 各領域の解剖と画像の関係をイメージできる。
- 3. 臨床における超音波検査の意義を理解し、正常像、異常像についてそれぞれの特徴を説明できる。

【 到達目標（S B O） 】

超音波の特性について説明できる。
超音波検査ならではの現象やアーチファクトについて説明ができる。
正常像、有所見像について、その根拠を示しその所見の判別ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	超音波とは。	石 崎
2	超音波検査とは。	石 崎
3	エコー装置の構成 1	石 崎
4	エコー装置の構成 2	石 崎
5	アーチファクトと現象 1	石 崎
6	アーチファクトと現象 2	石 崎
7	心臓領域 1	石 崎
8	心臓領域 2	石 崎
9	心臓領域 3	石 崎
10	腹部領域 1	石 崎
11	腹部領域 2	石 崎
12	腹部領域 3	石 崎
13	表在領域	石 崎
14	血管領域(頸動脈)	石 崎
15	血管領域(下肢その他)	石 崎

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	神経筋感覚機能検査学実習		担当教員 小野瀬 志美 山川 憲文	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 2 学年	単位数 1

【一般目標（G I O）】

- 中枢神経系：1. 神経生理の基礎知識と脳波、大脳誘発電位検査に関する解剖を理解する。
2. 測定機器の測定原理と操作、アーチファクト対策を理解する。
3. 検査目的、結果、波形と疾患の関係を理解する。
- 末梢神経系：1. ニューロンの構成および刺激伝導機序を理解する。
2. 代表的な神経名称および走行を覚える。
3. 筋電計の操作方法の習得および神経伝導速度検査の測定を実習する。
4. 神経伝導検査の臨床的意義と上結果の解釈、関連疾患を理解する。

【到達目標（S B O）】

1. 検査依頼から実施、結果報告までの流れを理解する。
2. 検査機器の準備、適切な使用、片付けができる。
3. 検査を実施するための電極装着ができ、結果を解釈し、被験者への適切な対応ができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	神経生理学の概要と基礎知識と検査の流れについて	小野瀬
2	脳の構造と機能(神経細胞の構造、興奮の伝導、脳の機能的構造と発生機序)	小野瀬
3	脳波実習、脳波計・筋電計の構造と原理(電極の配置、導出法)の解説	小野瀬
4	脳波実習、脳波の基礎的要素(振幅、周波数、位相)解説	小野瀬
5	脳波実習、脳波計・筋電計の構造と原理(電極の配置、導出法)の解説	小野瀬
6	脳波実習、脳波計・筋電計の構造と原理(電極の配置、導出法)の解説	小野瀬
7	年齢と脳波の変化、正常脳波、睡眠脳波(睡眠段階、終夜睡眠ポリグラフ)	小野瀬
8	脳波実習、脳波の賦活法、異常脳波と関連疾患について	小野瀬
9	脳波実習、アーチファクトとその対応について	小野瀬
10	神経伝導速度測定法の基礎と筋電計操作。刺激を行いCMAP波形導出	山 川
11	運動神経伝導速度を正中神経刺激にて実習 超最大刺激法	山 川
12	F波の理論解説、測定方法の実習	山 川
13	感覚神経刺激伝導速度測定方法の解説と実習	山 川
14	導出波形成分のマーキングと計測、伝導速度の算出実習	山 川
15	脳波、末梢神経検査まとめ	小野瀬・山川

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 配布プリント
成績評価法	定期試験、レポート
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	画像検査学実習		担当教員 前島 暁美 辻 正恵 伊藤 洋美	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 2 学年	単位数 1

【一般目標（G I O）】

1. 講義で習得した超音波の知識をより確実なものにするために各臓器の走査法を体験する。
2. 必要に応じてモード(Bモード、Mモード、ドプラ法)の選択ができるようにするために各種手法の役割と装置の操作法を理解する。

【到達目標（S B O）】

- 1) 装置の調整(ゲイン、STC、サイズ他)と各ツマミの役割を説明できる。
- 2) 心臓の基本断面の描出と心機能計測の説明ができる。
- 3) 肝臓と胆嚢の描出と解剖学的位置関係の説明ができる。
- 4) 膀胱、脾臓、腎臓の描出解剖学的位置関係の説明ができる。
- 5) 甲状腺の描出と臓器の位置関係が説明ができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	装置の調整法と探触子の取り扱い方	前島・辻・伊藤
2	心臓超音波検査Ⅰ(左室長軸断面、左室短軸断面の描出)	前島・辻・伊藤
3	心臓超音波検査Ⅱ(心尖部長軸断面、心尖部四腔断面の描出)	前島・辻・伊藤
4	心臓超音波検査Ⅲ(心腔サイズの計測と心機能評価の進め方)	前島・辻・伊藤
5	心臓超音波検査Ⅳ(各種ドプラの記録と計測)	前島・辻・伊藤
6	腹部超音波検査Ⅰ(肝臓の描出と計測)	前島・辻・伊藤
7	腹部超音波検査Ⅱ(前処置の効果確認と胆嚢、総胆管の描出)	前島・辻・伊藤
8	腹部超音波検査Ⅲ(膀胱の描出と尿管の計測)	前島・辻・伊藤
9	腹部超音波検査Ⅳ(脾臓、腎臓の描出)	前島・辻・伊藤
10	表在超音波検査Ⅰ(甲状腺の描出と副甲状腺の位置把握)	前島・辻・伊藤
11	表在超音波検査Ⅱ(総頸動脈、内頸動脈、外頸動脈の描出)	前島・辻・伊藤
12	表在超音波検査Ⅲ(総頸動脈、内頸動脈、外頸動脈の描出)	前島・辻・伊藤
13	表在超音波検査Ⅳ(ライブデモによる乳腺と下肢血管の描出)	前島・辻・伊藤
14	画像検査学総括Ⅰ	前島・辻・伊藤
15	画像検査学総括Ⅱ	前島・辻・伊藤

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学
成績評価法	定期試験・レポート点を加味する
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	検査管理総論	担当教員	中井 達郎	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

検査結果の過誤は検査過程での異常のみならず、患者への説明不足や採血時間の遅れ、検体保存や処理方法の誤り、結果の表記ミスなど様々である。従って、臨床に報告した検査結果が正確であることを保証できるためには、システムの管理を徹底し、グラフや統計といった手段を用いて結果の正しさを自己評価できるようにしておく必要がある。そして、臨床報告された検査結果が常に正確であることが保障されていなければならない。臨床検査技師は検査結果の精度を保障する根拠と手段を明確にし、いつでも公表できる状態にしておかなければならない。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 臨床検査技師の役割と使命を理解し説明できる。
- 2) 診断方法の変遷を理解し、臨床検査の意義を説明できる。
- 3) 検査管理の定義、検査部門の役割、検査の倫理を理解し、検査管理の概念を説明できる。
- 4) 検査部門の組織と業務およびチーム医療の重要性を理解し、それらを説明できる。
- 5) 検査部門の管理と運営、特に医療安全、感染対策、安全衛生管理などについて理解し説明できる。
- 6) 検査受付、検体の前処理、検査結果の報告などの流れを理解し説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査技師の役割と使命	中 井
2	臨床検査の意義	中 井
3	臨床検査の概念	中 井
4	検査部門の組織と業務	中 井
5	検査部門の管理・運営（業務管理、機器管理）	中 井
6	検査部門の管理・運営（物品・情報・財務管理）	中 井
7	検査部門の管理・運営（医療安全）	中 井
8	検査部門の管理・運営（感染対策、安全衛生管理）	中 井
9	検査の受付と報告、検査の精度保証（概略）	中 井
10	検査の受付と報告、検査の精度保証（誤差）	中 井
11	検査の精度保証（単位、精度管理法）	中 井
12	消毒・滅菌	中 井
13	検査の精度保証（標準化）	中 井
14	検査の精度保証（測定法の信頼性評価）	中 井
15	総まとめ	

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 配布プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	精度管理学	担当教員	中井 達郎	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

検査結果が正確であることを保証できるためには、システムの管理を徹底し、グラフや統計といった手段を用いて結果の正しさを自己評価できるようにしておく必要がある。そして、臨床報告された検査結果が常に正確であることが保障されていなければならず、臨床検査技師は検査結果の精度を保障する根拠と手段を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1）検査の精度保証（精度管理）について理解し説明できる。
8）臨床検査全体の総合的な精度保証について理解し説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	検査の精度保証（単位）	中 井
2	検査の精度保証（標準物質）	中 井
3	内部精度管理法 1	中 井
4	内部精度管理法 2	中 井
5	外部精度管理法	中 井
6	検査の標準化	中 井
7	測定法の信頼性評価	中 井
8	総 括	中 井
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 配布プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	臨床検査マネジメント		担当教員	上野 芳人	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

1. 医療の場で生じるものごと(情報)の収集や医療の向上について学ぶ。
また、現代の医療は複数の専門医や医療職種がチームとなって行われていることを解説する。
2. 病院オーダリングシステムや電子カルテシステムについて、全般的な管理と運営について学ぶ。
また、臨床検査はこれらの医療情報システムの中できわめて重要な位置を占めており、いかに迅速に、正確に臨床側へ情報を提供していくかを学ぶ。さらにITを活用した地域医療の現状や臨床検査の関わりについて学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

1. 医療情報に特徴的な多種多様な表現、種類について説明できる。
2. 病院情報システムの特徴、運用や臨床検査の活用について概説できる。
3. ITを活用した地域医療ネットワークと臨床検査について概説できる。
4. 臨床検査情報を活用した臨床支援について概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医療情報の概要と特性について	上 野
2	病院情報システムの機能、運用について①	上 野
3	病院情報システムの機能、運用について②	上 野
4	病院情報システムと医療安全管理システムの活用について	上 野
5	臨床検査情報における臨床支援とその付加価値について	上 野
6	臨床検査情報における診療ガイドラインおよびEBMについて	上 野
7	地域医療ネットワークと臨床検査の関係について	上 野
8	臨床検査マネジメントのまとめ	上 野
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	授業開始時にプリントを配布する
成績評価法	定期試験、ポストテストを加味する。
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	医療安全管理学			担当教員	辻 正恵		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

リスクマネジメントの考え方や検査業務の心得やスタッフ間の報・連・相の大切さを理解する。
感染対策の基本的概念感染予防策について理解する。
各部位からの検体採取の手技と目的・保管法について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 感染予防策について説明できる。
- 2) 医療事故についての対応と責任について理解し、説明できる。
- 3) 検体採取時の禁忌と注意事項が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	患者と臨床検査技師のかかわり	辻
2	リスクマネージメント	辻
3	感染対策	辻
4	検体採取① ～総論～	辻
5	検体採取② ～採血～	辻
6	検体採取③ ～鼻腔・咽頭～	辻
7	検体採取④ ～皮膚・肛門～	辻
8	総括	辻
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 医療安全管理学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験、ポストテスト
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	医療安全管理学実習			担当教員	西澤・辻・高橋		授業形態	☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

検体採取の手技と目的・保管の手技を修得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 肘静脈からの採血の方法が説明できる。
- 2) 毛細血管からの採血の方法が説明できる。
- 3) 鼻腔・咽頭からの検体採取法が説明できる。
- 4) 爪・肛門からの検体採取法が説明できる。
- 5) タスクシフトシエアに関する検体採取・検査が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス	辻・高橋
2	肘静脈採血法 1	辻・高橋
3	肘静脈採血法 2	辻・高橋
4	表在静脈採血法（手背など）	辻・高橋
5	静脈路確保	辻・高橋
6	毛細血管採血法（耳朶・足趾・指頭）	辻・高橋
7	持続皮下グルコース検査	辻・高橋
8	鼻腔・咽頭からの検体採取法	辻・高橋
9	口腔からの検体採取法	辻・高橋
10	喀痰の採取	西 澤
11	皮膚・爪からの検体採取法	辻・高橋
12	肛門からの検体採取法	辻・高橋
13	直腸肛門機能検査	辻・高橋
14	誘発電位検査に係わる電極の装着	辻・高橋
15	総まとめ	辻・高橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 医療安全管理学 医歯薬出版
成績評価法	定期試験、レポート
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	薬理学	担当教員	百 賢二	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

血液、検体採取及び生理学的検査を実践するにあたり、薬理学の観点から系統立てて理解するためと高度化する医療ニーズに対応した検査情報の提供を実践するため、臨床検査の基礎となる薬理、病態薬理の基礎を学習し、救急や病棟、在宅など様々な現場で行われる臨床検査と関連付けて理解するとともに、医薬品の作用機序について疾病と関連付けて把握する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 薬物相互作用について概説できる。
- 2) 臨床薬物動態について代表的な薬物を中心に概説できる。
- 3) 一般的な薬理遺伝的特徴について理解する。
- 4) 薬の有効性・安全性について代表的な医薬品に基づき説明できる。
- 5) 薬物療法の個別化-TDMと薬物投与設計-について具体例を挙げ概説できる。
- 6) 代表的な期間に作用する医薬品の薬理について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	薬理学総論	百
2	臨床薬理学（薬物動態・TDM）	百
3	末梢神経系に作用する医薬品と薬理	百
4	循環器系に作用する医薬品と薬理	百
5	中枢神経系に作用する医薬品と薬理	百
6	肝代謝・腎代謝と薬物相互作用	百
7	TDMに必要な知識	百
8	薬理学まとめ、演習	百
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	講義資料プリントを配布する
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

2 0 2 6 年度

シラバス

3 年生

【前期】

- ①医学検査総論
- ②保健福祉概論
- ③血液検査学演習
- ④生体分析検査学演習
- ⑤形態学演習
- ⑥移植免疫検査学演習
- ⑦臨床微生物検査学演習
- ⑧生体機能検査学演習
- ⑨臨床検査総合演習

2026年度 臨床検査技師科Ⅱ部 前期時間割

第3学年

時限	1		2	
時間	18：00～19：30		19：40 ～21：10	
月	生体分析検査学演習 小 林	臨床検査総合演習 高 橋	生体分析検査学演習 小 林	臨床検査総合演習 高 橋
火	微生物検査学演習 青 野 (小林)	血液検査学演習 常 名 (小林)	移植免疫検査学演習 木 村 (高橋)	血液検査学演習 常 名 (小林)
水	移植免疫検査学演習 木 村 (高橋)	形態学演習 青 木 (小林)	移植免疫検査学演習 木 村 (高橋)	形態学演習 青 木 (小林)
木	生体分析検査学演習 辻	医学検査総論 荒 木 (小林)	生体分析検査学演習 辻	医学検査総論 荒 木 (小林)
金	生理機能検査学演習 石 崎 (辻)		生理機能検査学演習 石 崎 (辻)	
土	予 備 日			

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	医学検査総論	担当教員	荒木 潤	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

寄生虫学の基礎概論を学び、寄生虫疾患について、伝染経路、病態、検査法について学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 寄生虫の伝染経路を説明できる。
- 2) 寄生虫の検査法を説明できる。
- 3) 寄生虫疾患の病態を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	寄生虫学の総論	荒 木
2	吸虫類	荒 木
3	線虫類	荒 木
4	条虫類	荒 木
5	原虫類	荒 木
6	マラリア感染症	荒 木
7	衛生動物	荒 木
8	輸入感染症	荒 木
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	医動物学 南山堂
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に経験経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	保健福祉論	担当教員	小林隆志	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

わが国の急速な人口の高齢化や医療技術の進歩と高度化に伴って国民医療費が高騰している日本の医療制度の特徴や医療保険制度、社会福祉および社会保障制度の現状を学ぶ。また、諸外国との違いについて学ぶ。臨床検査が医療・福祉とどのようにかかわれば良いかを創造できるようにする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．わが国の医療制度、医療保険制度、介護保険制度の概要を説明できる。
- 2．わが国の国民医療費の現状、医療保険の種類、諸外国との違いを説明できる。
- 3．感染症、精神疾患などの特殊な医療について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	日本の医療計画における医療圏	小 林
2	疫 学	小 林
3	保健統計	小 林
4	高齢者医療（老人福祉法、介護保険制度など）	小 林
5	特殊医療（感染症医療、難病医療、精神医療、災害医療）	小 林
6	医療提供体制における病院、特定機能病院	小 林
7	社会保障制度（医療保険制度、診療報酬制度）	小 林
8	わが国の国民医療費の推移	小 林
9	年代別・疾患分類別による医療費の現状と問題点	小 林
10	わが国の健康増進	小 林
11	障害者福祉、精神保健福祉	小 林
12	食品衛生	小 林
13	産業保険	小 林
14	環境保健	小 林
15	総 括	小 林

教科書・参考書	公衆衛生がみえる2024-2025
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験無し

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	血液検査学演習		担当教員	常名 政弘	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	3 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】 常 名
血液学検査全般の検査項目と測定原理を理解する。
血液細胞分類と臨床的意義を理解する。
検査値を判読し血液疾患などの臨床的意義を理解する。
【 到達目標（S B O） 】
1．一般血液学検査(血算・凝固検査)の原理と臨床的意義が説明できる。
2．形態学的検査の原理と臨床的意義が説明できる。
3．検査値を判読し血液疾患などの臨床的意義を説明できる。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	凝固検査	常 名
2	凝固検査の臨床的応用	常 名
3	末梢血液検査	常 名
4	末梢血液検査	常 名
5	骨髄検査	常 名
6	骨髄検査の臨床応用	常 名
7	症例検討①	常 名
8	症例検討②	常 名
9	総まとめ	常 名
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生体分析検査学演習	担当教員	小林 隆志 辻 正恵	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査領域における化学分析の知識を確実なものにする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．臨床検査領域の化学分析の基本的な原理が説明できる。
- 2．臨床化学分析における影響物質およびその影響を説明できる。
- 3．主な疾患とその化学分析検査の結果を予想することができる。
- 4．尿沈渣成分の臨床的意義が説明できる。
- 5．髄液の検査の臨床的意義が説明できる。
- 6．その他の体液・穿刺液等の検査法と臨床的意義が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床化学分析学の基本的な測定原理	小 林
2	糖質および関連物質の測定	小 林
3	脂質および関連物質の測定	小 林
4	蛋白質および関連物質の測定	小 林
5	非蛋白性窒素成分の測定	小 林
6	非蛋白性窒素成分の測定	小 林
7	バイオマーカーの測定	小 林
8	機能試験	小 林
9	尿定性分析 1	辻
10	尿定性分析 2	辻
11	尿沈渣 血球成分	辻
12	尿沈渣 血球成分	辻
13	髄液・体腔穿刺液検査	辻
14	演習 1	小 林
15	演習 2	小 林

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学・一般検査学 （医歯薬出版）
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	形態学演習	担当教員	青木 裕志	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

病理学の知識を整理し、病理検査標本作製の目的を理解する。
病理標本作製技術を理解する。
病理組織標本作製における一般染色及び特殊染色原理・染色態度を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 主な疾患の病理学的の変化を説明できる。
- 2) 組織を切り出しから染色までの病理組織標本作製の過程を説明できる。
- 3) 各種染色の原理及び染色態度について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	炎症	青 木
2	腫瘍	青 木
3	固定法	青 木
4	脱灰・包埋法	青 木
5	染色法 ヘマトキシリンの染色原理	青 木
6	結合組織の染色法	青 木
7	核酸の染色法、組織内病原体の染色法	青 木
8	無機質・生体内色素の染色法	青 木
9	多糖体の染色法、脂肪の染色方	青 木
10	神経組織の染色法、免疫組織染色法	青 木
11	細胞診の染色と検体処理法	青 木
12	婦人科細胞診	青 木
13	呼吸器細胞診	青 木
14	その他の細胞診	青 木
15	総まとめ	青 木

教科書・参考書	臨床検査学講座 病理学/病理検査学 染色法のすべて
成績評価法	定期試験、ポストテスト
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学演習	担当教員	移植免疫検査学演習	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

様々な病原体感染に対する防御システムとしての免疫の働きを正しく理解する。
さらにアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、血液型や移植検査等の検査法についても学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 抗原抗体反応、抗原抗体反応に影響を与える原因を説明できる。
- 2) 感染症、血漿蛋白異常症とその検査法、結果の解釈について説明できる。
- 3) 腫瘍免疫とその免疫学的検査法、結果の解釈について説明できる。
- 4) アレルギーの成因機序とその免疫学的検査法について説明できる。
- 5) ABO式、Rh式の血液型検査が説明できる。
- 6) 交差適合試験、不規則性抗体の検査について説明ができる

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	免疫担当細胞、自然免疫と獲得免疫	木 村
2	獲得免疫におけるT細胞、B細胞の役割	木 村
3	B細胞の分化増殖と抗体の産生	木 村
4	抗体の種類と機能、補体蛋白	木 村
5	活動免疫と受動免疫、ワクチンの種類	木 村
6	抗原抗体反応の基礎知識、反応に影響を与える原因	木 村
7	血漿蛋白異常症の検査法と結果の解釈	木 村
8	血漿蛋白異常症の検査法と結果の解釈	木 村
9	感染症(溶連菌、梅毒、ウイルス等)検査法と結果の解釈	木 村
10	アレルギーの検査法、自己免疫病の種類と検査法、結果の解釈	木 村
11	ABO、Rh血液型、その他の血液型とその検査法	木 村
12	交差適合試験	木 村
13	不規則性抗体スクリーニング法	木 村
14	輸血と副作用、各種製剤	木 村
15	総まとめ	木 村

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 免疫検査学 配布プリント
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関での実務経験なし

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床微生物検査学演習	担当教員	青野 昭男	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

感染症において問題となる微生物について形態、染色性、培養法、生化学的性状などについて系統的に理解するとともに、近年世界的に問題となっている薬剤耐性菌問題について理解することで、感染症の診断、治療につなげる検査法を総合的に理解する能力を養う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1）感染症の起炎菌となり得る各種細菌について、形態、染色性、培養法、生化学的を説明できる。
- 2）細菌検査に用いる各種培地の特徴を理解し選択することができる。
- 3）臨床から分離される菌の特徴を説明することができる。
- 4）一般細菌、抗酸菌、嫌気性菌の特徴を理解し説明することができる。
- 5）各種耐性菌の検出方法が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	グラム陽性球菌1	青 野
2	グラム陽性球菌2	青 野
3	腸内細菌科細菌1	青 野
4	腸内細菌科細菌2	青 野
5	腸内細菌科細菌3	青 野
6	腸内細菌科細菌4	青 野
7	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌1	青 野
8	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌2	青 野
9	抗酸菌	青 野
10	微好気性菌	青 野
11	偏性嫌気性菌	青 野
12	真菌・ウイルス	青 野
13	抗菌薬	青 野
14	薬剤耐性菌	青 野
15	総 括	青 野

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生理機能検査学演習	担当教員	石崎一穂	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

循環呼吸機能検査学や神経筋感覚機能検査学で学んだことを復習し、心電図や血液ガス、呼吸機能検査、脳波・筋電図、超音波検査などの解析を行い判断能力を養う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1．心電図の所見が説明できる。
- 2．血液ガス検査値の概説ができる。
- 3．脳波・筋電図・誘発電位の所見が説明できる。
- 4．聴力検査の概説ができる。
- 5．超音波検査の概説ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	心電図の基礎	石 崎
2	心電図 異常波形 心電図判読トレーニング	石 崎
3	心電図 不整脈（頻脈） 心電図判読トレーニング	石 崎
4	心電図 虚血その他 心電図判読トレーニング	石 崎
5	心機図・心音図・血管検査 心電図判読トレーニング	石 崎
6	呼吸機能検査Ⅱ 血液ガス分析 心電図・血ガストレーニング	石 崎
7	脳波検査・PSG 心電図・血ガストレーニング	石 崎
8	筋電図検査・誘発電位検査 心電図・血ガストレーニング	石 崎
9	聴力検査・PSG 心電図・血ガストレーニング	石 崎
10	超音波検査と装置、アーチファクトと現象	石 崎
11	超音波検査 心臓領域	石 崎
12	超音波検査 腹部領域	石 崎
13	超音波検査 表在・血管領域	石 崎
14	その他の画像検査	石 崎
15	総まとめ	石 崎

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床検査総合演習			担当教員	高橋 理		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期			学 年	3 学年		単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

検査結果の過誤は検査過誤での異常のみならず、患者への説明不足や採血時間の遅れ、検体保存や処理方法の誤り、検査の標記ミスなど様々である。従って、臨床に報告した検査結果が正確であることを保証できるためには、システムの管理を徹底し、グラフや統計といった手段を用いて結果の正しさを自己評価できる能力を身につける。また、臨床検査全般の精度保証を確立するための知識を身につける。

【 到達目標（S B O） 】

1. 臨床検査技師の役割と使命、臨床検査の意義を説明できる。
2. 検査管理の定義、検査部門の役割、検査の倫理を理解し、検査管理の概念を説明できる。
3. 検査部門の組織を業務およびチーム医療の重要性を理解し、それらを説明できる。
4. 検査部門の管理と運営(特に医療安全、感染対策、安全衛生管理)について理解し説明できる。
5. 検査受付、検体の前処理、検査結果の報告などの流れを理解し説明できる。
6. 検査の精度保証(精度管理)について理解し説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査技師の役割と使命	高 橋
2	臨床検査の意義	高 橋
3	臨床検査の概念	高 橋
4	検査部門の組織と業務	高 橋
5	検査部門の管理・運営(業務管理、機器管理)	高 橋
6	検査部門の管理・運営(物品・情報・財務管理)	高 橋
7	検査部門の管理・運営(医療安全)	高 橋
8	検査部門の管理・運営(感染対策、安全衛生管理)	高 橋
9	検査の精度保証（概略）	高 橋
10	検査の精度保証（誤差）	高 橋
11	検査の精度保証（単位、精度管理法）	高 橋
12	手指衛生、消毒・滅菌	高 橋
13	検査の精度保証（標準化）	高 橋
14	検査の精度保証（測定法の信頼性評価）	高 橋
15	総まとめ	高 橋

教科書・参考書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 （医歯薬出版）
成績評価法	定期試験、ポストテスト
備考・実務経験等	病院・医療機関での勤務経験あり

2 0 2 6 年度

シラバス

3 年生

【後期】

①臨地前学内実習

②臨地実習

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨地前学内実習	担当教員	専任教員	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

医療の現場、医療施設において実習する知識・実践技術を修得する。

【 到達目標（S B O） 】

医療施設の臨床検査の現場で臨床検査技師としての必要不可欠な基本的技術を身につける。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
	次の内容をローテーションする。 検体採取・採血、臨床化学・生化学検査血液検査、免疫検査、輸血検査、臨床微生物検査、病理細胞学検査、生理学的検査、一般検査、緊急検査など	専任教員

教科書・参考書	臨床検査技師 臨地実習ハンドブック （医歯薬出版）
成績評価法	実技試験
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務経験あり

臨床検査技師科Ⅱ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨地実習		担当教員	専任教員	授業形態	☐ 講義	☒ 実習	
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年	単位数	1 1		

【 一般目標（G I O） 】

医療の現場において実際の体験を通して臨床検査技師としての実践技術を修得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 医療施設の臨床検査の現場で臨床検査技師としての不可欠な基本的技術を身につける。
- 2) 臨床検査情報の意義、精度管理の方法を身につける。
- 3) 検査情報より病態が解析できる能力を身につける。
- 4) 臨床検査技師の医療チームの一員としての役割を理解する。
- 5) 医療の現場に身を置くことで、医療人としての自覚をもつ。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
	ここ実習施設により異なるが、次の内容をローテーションする。 採血、臨床化学・生化学検査血液検査、免疫検査、輸血検査、 臨床微生物検査、病理細胞学検査、生理学的検査、一般検査、緊急検査 など	各実習施設の 担当者

教科書・参考書	臨床検査技師 臨地実習ノート （医歯薬出版）
成績評価法	各施設の評価による
備考・実務経験等	病院・医療機関に勤務